

貝掛

貝掛のやぐらは、大正時代末期に新調された 80 年以上曳いている歴史あるやぐらで、昭和 60 年に大修復しました。

やぐらの彫物には、「加藤^{かとうきよまさ}清正の虎退治」、「牛若丸^{うしわかまる}と弁慶^{べんけい}」、

「忠臣蔵^{ちゆうしんぐら}」を題材とし、本幕には正面に「二爪^{ふたづめ}の虎」、側面に「龍」が刺繍されています。

貝掛のやぐらは地元の指出森神社^{さしでもりじんじゃ}と石田の波太神社^{はたじんじゃ}の 2 社

へ宮入する珍しいやぐらで、以前指出森神社^{さしでもりじんじゃ}の氏神が波太神^{はた}

社^{ごうし}へ合祀されたのがその由縁だと言われています。

今年^{たけわ}は保存会会長武輪俊夫さん、若頭^{わかがしら}会田中義人さん、青

年団^{ともり}団長肥田智憲さんを中心に、世代を越えた結束を自慢と

しております。